

平成23年度プロジェクト実施報告書

「イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイヴ」

(申請者：梶屋友子)

(1) プロジェクト全体計画 (概要・目的・意義など)

世界の様々なコレクションに収められているイスラーム美術作品やイスラーム地域各地に残されたイスラーム時代の建築作品の調査研究を行って収集した画像資料と作品・建築に関する情報や既に蓄積された画像資料を整理・分類・分析することによって、アジアにおいて文化的・国家的自己同一性の追求と形成がいかに美術に即していたかについて、イスラーム地域の事例を供するものである。

(2) 今年度の進捗状況

英国・エジンバラの王立スコットランド博物館、オックスフォードのアシュモリアン美術館、兵庫県西宮市武庫川女子大学トルコ文化研究センターシルクロード建築文化展示室所蔵のペルシア・タイルの調査を行い、データを蓄積した。また、フスタート採取のイスラーム陶器片について、岡山県倉敷市大原美術館所蔵の作品を、イスラーム美術作品全般について岡山県岡山市立オリエント美術館の作品を調査した (いずれも次年度も継続)。

(3) 公開済みの (または予定の) 具体的な成果物

インド・イスラーム史跡写真については、センターのホームページで公開中 (<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>)。イスラーム・タイルについては、蓄積データ数が少なく、美術館および美術財団所蔵品の画像については著作権の問題があるため、公開形態も含めて検討中である。武庫川女子大学所蔵ペルシア・タイルについては、「セラミック室」図録 (2011年) を執筆し、情報を公開した。

また、2011年10月に武庫川女子大学において当該大学の所蔵ペルシア・タイルについて、2012年1月に岡山市立オリエント美術館において当該美術館所蔵のイスラーム美術作品について申請者が関連発表を行った。